

子ども平和新聞プロジェクト

「おりづる平和新聞」が完成しました

被爆・戦後80年の節目の年、岡山空襲をテーマにおかやまコープ組合員への公募などで集まってくれた小中学生8人（小学4年生4人、5年生1人、6年生1人、中学1年生）が、山陽新聞の記者から3回のワークショップで新聞作りを学び、戦争のない明るい世界を願い「おりづる平和新聞」を作りました。



▶ 新聞ができあがるまで

〈ワークショップ1回目 6月14日（土）〉

子ども平和新聞プロジェクトの子ども記者に任命され、講師の中川先生と子ども記者の名刺を交換した後、参加の意気込みを語りました。その後、新聞作りの学習が始まり、見出しや題字など聞きなれない言葉に戸惑いながらも真剣に学習し「早く、記事を書いてみたい」と気持ちが高まります。



〈ワークショップ2回目 6月28日（土）〉

子ども記者は、取材先の岡山城周辺の戦跡と岡山空襲展示室を訪れました。戦跡巡りでは、ガイドさんからの岡山空襲紙芝居に始まり、岡山城（礎石、月見櫓、石垣、榎の木）から旧内山下小学校、岡山禁酒会館と今も傷跡が残る戦跡を巡りました。岡山空襲展示室では、岡山空襲の日を翌日に控え、大勢の来場者でしたが、学芸員さんと話の掛け合いをし、展示物を観ながら説明を聴きました。記者さながらに自分で写真を撮るなど、よい取材ができました。



〈ワークショップ3回目 7月19日（土）〉

子ども記者が家庭でまとめて事前に提出した記事を、講師の中川先生と上野先生が表現を壊さないようなアドバイスを考えてきてくれ、一人ひとりに丁寧に説明してくれました。子ども記者は、イラスト入りの見出しや講師が感心するような写真を記事に差し込み、思い思いに記事を完成させました。



〈平和のひろば 7月26日（土）〉

平和のひろばでおりづる平和新聞を公開し、参加した子ども記者3名は、完成した新聞を手に取り「きれいにできて嬉しい、友だちにも配ります」と笑顔で来場者に新聞を手配りました。その後、修了証と記念品を理事長から手渡され、子ども記者としての役割を終えました。



▶ 子ども記者の感想

- 今、平和なのは同じような戦争をくり返さないように気をつけているからだと分かった。だからぼくもけんかをしないように悪口を言わないように気をつけたい。今回勉強したことを周りに伝えていきたいです。
- 岡山空しゅうのことを知って、自分事として考えるようになりました。

戦争のない明るい世界を

おりづる 平和新聞



発行元/
生活協同組合おかやまコープ
制作協力/
株式会社 山陽新聞社

岡山空しゅう学ぶ

小中学生 戦跡や資料見学

岡山空しゅう（1945年6月29日）をテーマに岡山県内の小中学生が、新聞を作りました。6月28日、岡山城（岡山市北区丸の内）周辺の戦跡をめぐったり、岡山シティミュージアム（同駅元町）の岡山空しゅう展示室を訪れたりして取材し、戦争の悲しさや平和な世界の大切さを感じました。



戦争はおそろしい

岡山空しゅう戦せきめぐりをした。初めに石山公園で、「岡山の戦争と戦災を記録する会」の谷口朋美さんと前田真理子さんが岡山空しゅうの紙しばいをしてくださった。しょういだんがおとされて、岡山は火がもえ広がり、その中をふとんをかぶってにげる人ぞいたと聞いて、おどろいた。重いし、熱いし、どんなにこわかっただろうと思った。

岡山城では、焼け跡が残る天守閣の礎石を見た。赤黒い色をしていて、色々な形があった。焼けた後、元と同じようにならばれていて、旧内山下小学校では、大東亜戦争開戦記念ひを見た。てきをおすというねがいがあるめられてる物なので、敗戦後にアメリカ軍にて、去されないように、文字の上には、コメントがぬられて、読めないようになつていた。

これまで、戦争の話を読んでも、自分からは遠くはなれたことと思っていたが、本当にあってたことなのだと身近に感じた。恐ろしいと思った。

御野小学校4年 信岡里実

今も消えない

戦争のあと

80年前の6月29日、岡山中心に、おそろしい焼いだんが、雨のように降ってきた。まだみんなが眠っている午前2時43分から84分間のできごとだった。



E48集束焼いだんは、ゼリ1状になつたがソリソと有毒

が黄りんが入つた小型の焼いだんも38本束ねたものだ。他にも、大型のM47焼いだんと合計で9万5千708発を落とされたのだ。ぎせり者は、2千人以上ともいわれる。空しゅう後の岡山城には、今も焼けこげた石かきや、ほのおで焼かれ、変形したままの木が残つていた。戦争のおそろしさが伝わってきた。平和は当たり前ではない。戦争は、二度と起こしてはいけない。と、多くの人に伝えていきたい。

和気小学校5年 藤原宙

二度とくり返さばいけない

みなさんは岡山城が建て直されたことを知っていますか。

一九四五年（昭和二十年）六月二十九日に、ばくげき機B29が、岡山市内にしよういだんを落とすとしていきました。

アメリカ軍がしよういだんを落とす目標とした場所は、今のNTTクレドビル前の交差点の中心です。岡山城は、た、たーばんのこうげきで、やけくずれてしまいました。

しかし、月見やぐらと西手やぐらはやけのこりました。昔

岡山城の下にあった、やけたそ石は、今でも赤いままのこつています。

戦後、岡山城は建て直され、今では美しい岡山城が見られます。

わたしは、戦争でひがいにあつた岡山城周辺を見て回り

戦争のおそろしさを知りました。戦争は、だれもが悲しむ

ことなので、二度とくり返してはいけないと思ひました。

お話を聞かせてくださつた方々に感し、学んだことを活かしていきたいです。

山陽小学校4年 増永朱里

岡山空襲の思い出

ぼくはおりづる平和新聞を作るために、岡山空襲しゅうの事を学びました。岡山城の周りの戦跡めぐりをし、岡山シティミュージアムで学芸員さんから空襲しゅうの話聞きました。今から八十年前の六月二十九日午前二時四十三分から午前四時七分までの八十分間に落とされた焼い弾が岡山街を焼きつくし、七千かられた方も多くいました。この時の炎で赤くな、た岡山城の石垣は、今でも見ることができません。そして祭酒会館はバケツリレーを行、た事で、大正時代に建てられたままの状態を残、ています。

また逃げている途中で人を助けようとして焼い弾が直撃して七千、た方や、次の日に炊き出しをした婦人会の人達もいたそうです。

今回僕は戦争の怖さを知り、二度としてはいけないと思いました。しかし、大変な中でも助け合う気持ちの大切さを学びました。相手を思うことから平和が始まると思います。

箕島小学校 6年 平松伸伍

写真で残る岡山空襲

昭和20年6月29日、岡山市はアメリカ軍に約9万5千発のしゅういだんを落とされた。岡山シティミュージアムの岡山空襲しゅう展示室にはその当時の写真が残、ている。



みんなをまきこむ 悲しな戦争

一九四五年六月二十九日、岡山市では空襲しゅうけいぼうがすくには鳴らなかつた。大阪の司れい部が、岡山には空襲しゅうが来ない、とはんだんしたためだ。その結果、多くの人になくな、てしま、た。

岡山空襲しゅうで使われた焼いだんはゼリー状で、たてもぬにつくとなかなか落ちず、多くの火事を引き起、こした。「岡山の戦争と戦災を記録する会」の前田さんと谷口さんが紙しばいを読んでくれた。

アメリカ軍が岡山市上空から

らと、た写真は2枚ある。1枚は5月13日(写真上)、もう1枚は空襲しゅう後の7月5日(写真下)のものだ。建物がほぼなくなり焼け野原になっていることが分かる。当時の市街地の6%が焼けてしま、たことになる。焼け残、た建物は天満屋やゆう便局などの鉄きんコンクリートで作られたものだけだ。た。

少なくとも1万7千人が亡くなり、さらに多くの人がやけどやけがをした。長尾小学校5年 竹下睦生

その時に、空襲しゅうで皮ふがとけなが

ら、た人がいたことを知、た。私は皮ふがとけるなんて想像し、うでできない。



争はしたくない人でもまきこんでしま、うから、ぜ、対におこさないようにしたい。

弓削小学校4年 稲森咲日

戦争の怖さ、辛さ

私は、空襲しゅう展示室に行き、親や子供を亡、くした方や食べ物がない中でくらし、ていた方の辛さが分かりました。お金がない中でもお米を買、ていたことや、おかげで好きな物が食べられなかつたことも知りました。たべ物の大切さに気がかされ、好ききらいせずに食べようと思、ました。

そして、戦争をしてはだめだと思、いました。戦争のせいで小さい子が七千、たり、

しゅうんでうばおれにいのち

しゅういだんのこわさを初めて知、た。ぼくはしゅういだんがどれくらいの高さから落ちてくるのかと、しゅういだんの大きさをしゅういて書、きます。

しゅういだんは上空約1500メートルで小さなばくだんにわかれて落下してき、ました。そしてら、かさせるころは、いまのNTTクレド岡山ビルの前の交差点。はんけい1.2キロメートルでぼくは

悪くもない人が七千、たり

しました。特に生まれたての赤ちゃんなどは、母乳などが飲、めずに苦しんでいて、想像するだけでもかわいそうと思、いました。

展示品を見ると、父や母を亡、くした方が多、くて、少し怖か、たです。戦争は家族がバラバラになります。二度としないように何ができるのか考え、ていきたいです。また、戦争の怖さを多くの人に発信していき、たいです。後楽館中学校1年 平松夕季乃

つを起、こしました。

このように、しゅういだんはぼくはつ、のい力で、家や木などももわしたりしてしま、た。なので、戦争がどれだけかわいかがわかりました。山陽北小学校4年 豊福一翔

